

# 佐賀県の地震活動概況 (2026年3月)

令和8年4月9日  
佐賀地方気象台

## 【3月の地震活動概況】

3月に佐賀県内で震度1以上を観測した地震は4回(下図領域外を含む)でした(2月は1回)。

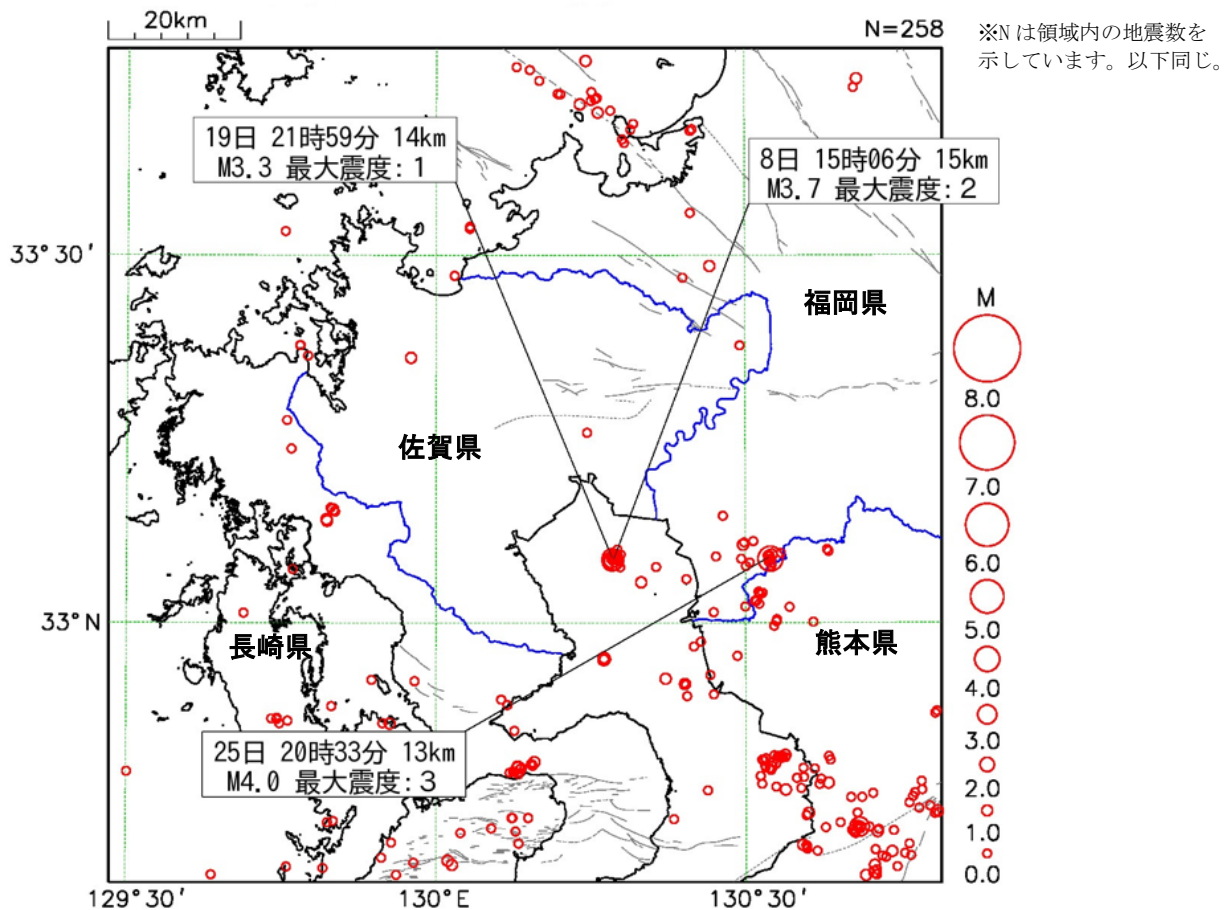


図1 震央分布図 (2026年3月1日~31日、深さ30km以浅、M≥0.0)  
灰色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

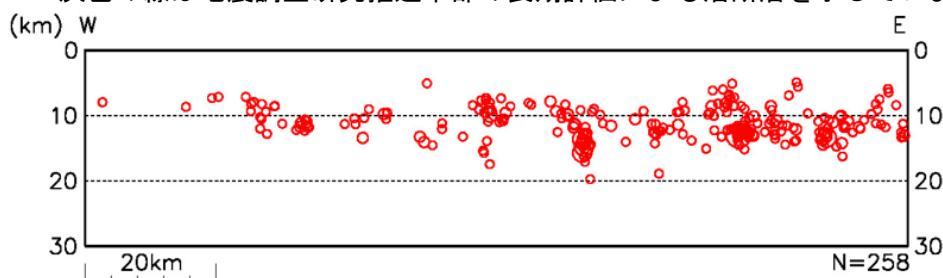


図2 断面図 (2026年3月1日~31日、深さ30km以浅)  
震央分布図を南の方から見た断面図です。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(よしが浦温泉、飯田小学校)、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(平島、小宝島)、EarthScope Consortiumの観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

## 薩摩半島西方沖（1 頁震央分布図領域外）

1 日 18 時 00 分に薩摩半島西方沖で M5.4 の地震（深さ 124km）が発生し、宮崎県の都城市、三股町、鹿児島県の鹿児島市、鹿屋市、大崎町、錦江町、肝付町、南種子町で震度 3 を観測したほか、近畿地方～九州地方にかけて震度 2～1 を観測しました。佐賀県では、神埼市、白石町で震度 1 を観測しました（図 3、表 1）。

今回の地震の震源付近（図 5 領域 b）では、2024 年 12 月 17 日に M5.2 の地震（深さ 164km、最大震度 3）が発生し、佐賀県では、神埼市で震度 1 を観測しました（図 4～6）。

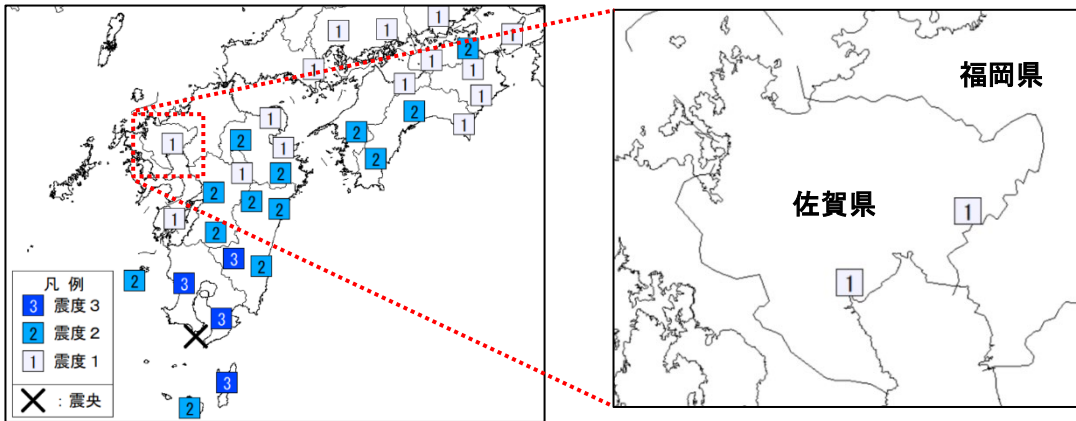


図 3 震度分布図（左図は地域別、右図は観測点別）

1 日 18 時 00 分 M5.4

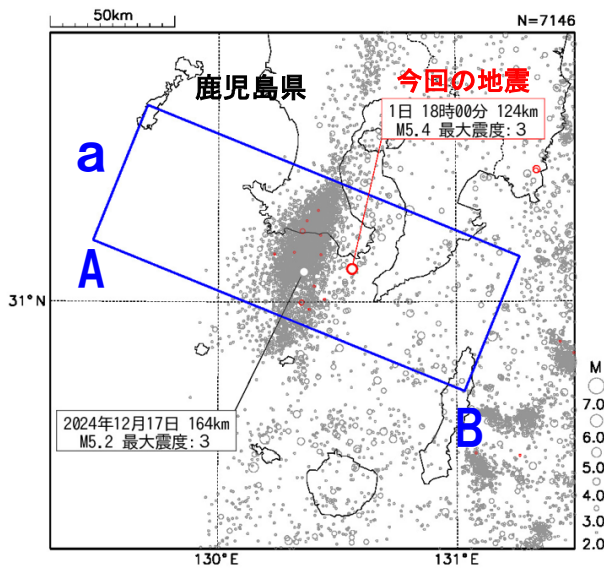


図 4 震央分布図

(1997 年 10 月 1 日～2026 年 3 月 31 日、  
深さ 30～200km M $\geq$ 2.0)

※2026 年 3 月 1 日以降の地震を赤色で表示

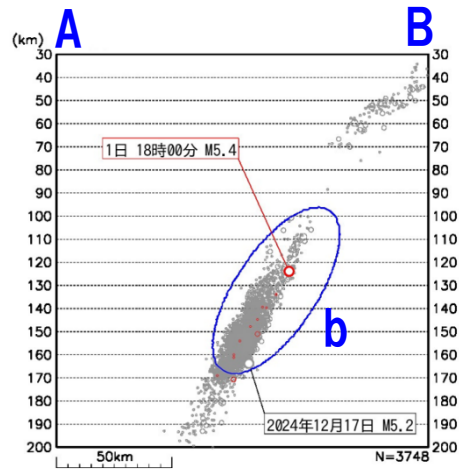


図 5 図 4 の領域 a 内の断面図（A-B 投影）

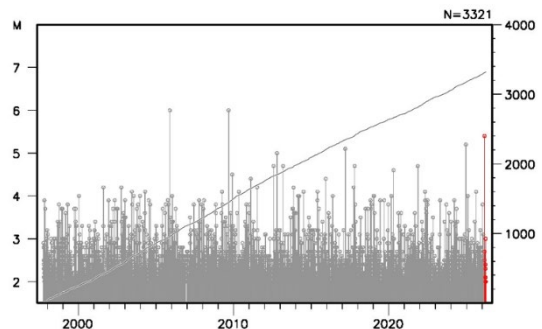


図 6 図 5 の領域 b 内の地震活動経過図  
および回数積算図

## 有明海の地震

8日15時06分に有明海でM3.7の地震（深さ15km）が発生し、福岡県の久留米市、大牟田市、佐賀県の佐賀市、小城市、熊本県荒尾市などで震度2を観測したほか、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県で震度1を観測しました。佐賀県では、佐賀市、小城市、太良町で震度2を観測したほか、県内の広い範囲で震度1を観測しました（図7、表1）。

また、ほぼ同じ場所で、19日21時59分にM3.3の地震（深さ14km）が発生し、福岡県の大牟田市、柳川市、佐賀県の佐賀市、唐津市、長崎県雲仙市、熊本県荒尾市などで震度1を観測しました（図8、表1）。

今回の地震の震央付近（図9領域a）では、2016年12月28日にM2.3の地震（深さ14km）が発生し、佐賀県嬉野市で震度1を観測しました（図9、10）。

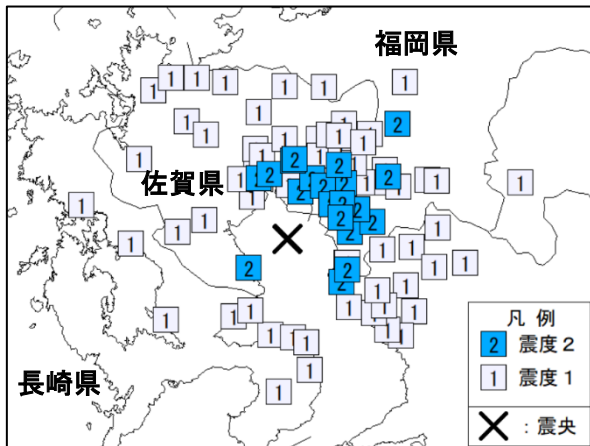


図7 震度分布図  
(8日15時06分 観測点別)

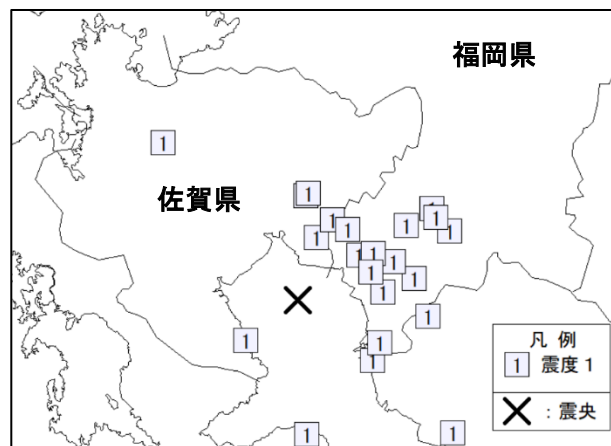


図8 震度分布図  
(19日21時59分 観測点別)

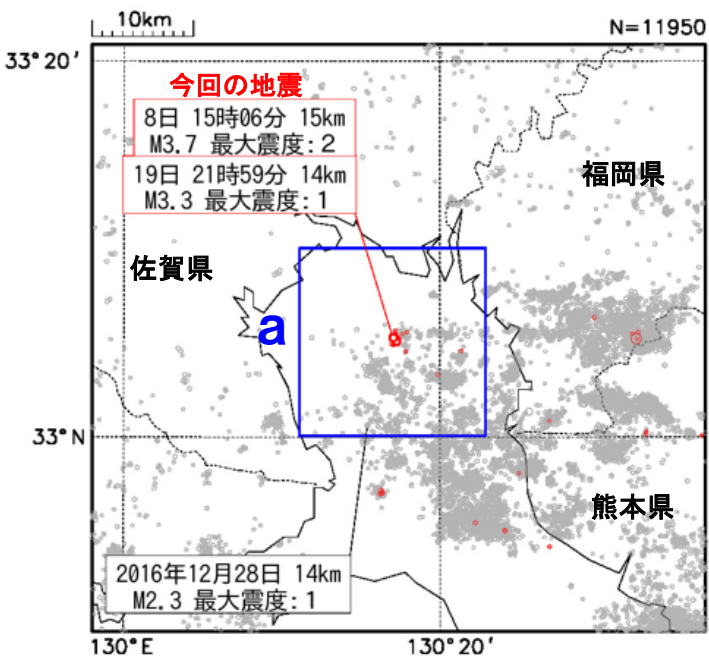


図9 震央分布図  
(2000年10月1日~2026年3月31日、  
深さ0~20km M $\geq$ 0.5)

※2026年3月1日以降の地震を赤色で表示

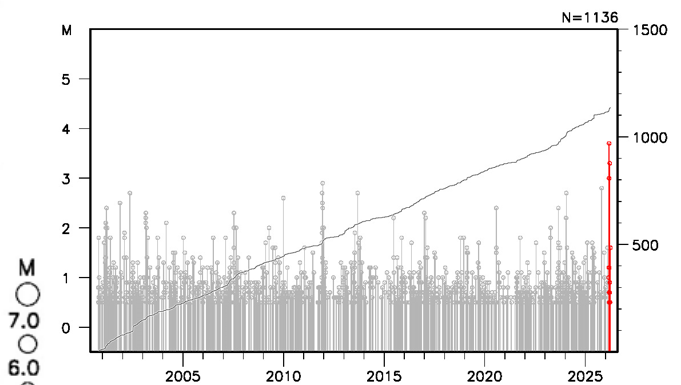


図10 図9の領域a内の地震活動経過図  
および回数積算図

## 福岡県筑後地方

25日20時33分に福岡県筑後地方でM4.0の地震（深さ13km）が発生し、福岡県の大牟田市、久留米市、佐賀県佐賀市、熊本県和水町などで震度3を観測したほか、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県で震度2～1を観測しました。佐賀県では、佐賀市で震度3を観測したほか、県内の広い範囲で震度2～1を観測しました（図11、表1）。

今回の地震の震央付近（図12領域a）では、2019年1月3日にM5.1の地震（深さ10km、最大震度6弱）が発生し、佐賀県では、佐賀市、武雄市、神崎市などで震度3を観測したほか、県内の広い範囲で震度2～1を観測しました（図12、13）。

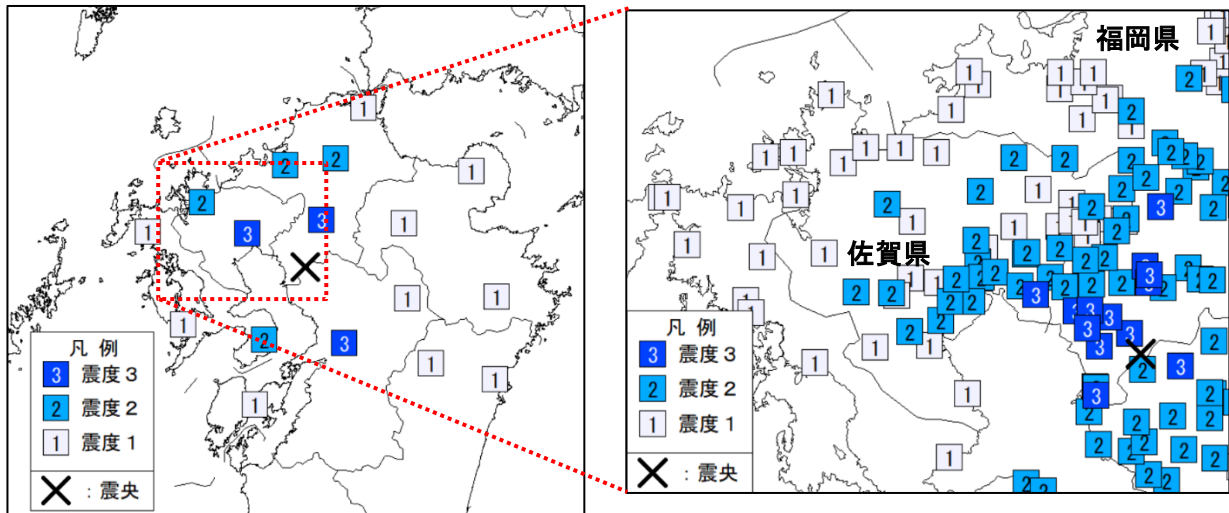


図11 震度分布図（左図は地域別、右図は観測点別）  
25日20時33分 M4.0

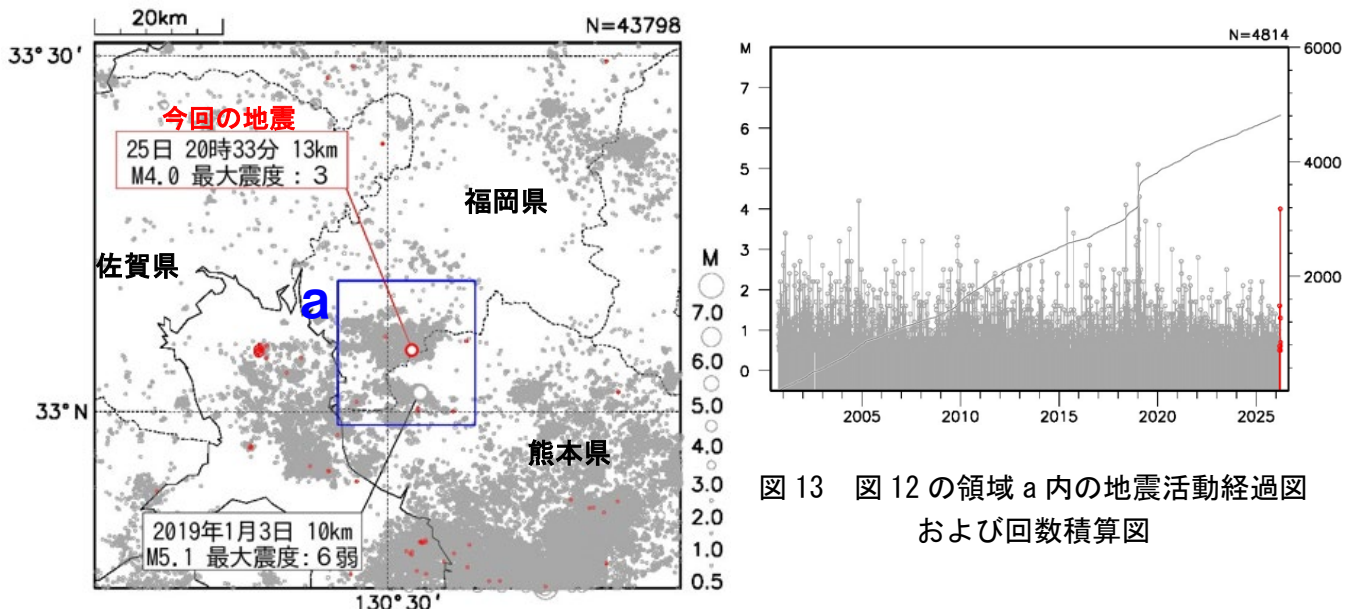


図12 震央分布図

(2000年10月1日～2026年3月31日、  
深さ0～20km M $\geq$ 0.5)

※2026年3月1日以降の地震を赤色で表示

図13 図12の領域a内の地震活動経過図  
および回数積算図

表 1 佐賀県内の震度観測点で震度 1 以上を観測した地震 (2026 年 3 月 1 日～31 日)

地震発生日時刻	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
2026 年 03 月 01 日 18 時 00 分 佐賀県	薩摩半島西方沖	31° 07.1' N	130° 33.7' E	124km	M5.4
	震度 1 : 白石町有明*, 神崎市千代田*				
2026 年 03 月 08 日 15 時 06 分 佐賀県	有明海	33° 05.1' N	130° 17.2' E	15km	M3.7
	震度 2 : 佐賀市駅前中央, 佐賀市栄町*, 佐賀市久保田*, 佐賀市諸富*, 佐賀市川副* 太良町多良, 小城市芦刈*				
	震度 1 : 唐津市西城内, 唐津市竹木場*, 唐津市巖木町*, 唐津市七山*, 唐津市浜玉* 唐津市相知*, 伊万里市立花町*, 佐賀市富士町*, 佐賀市大和*, 佐賀市三瀬* 佐賀市東与賀*, 上峰町坊所*, 江北町山口*, 白石町福富*, みやき町中原* みやき町三根*, 小城市三日月*, 小城市小城*, 小城市牛津*, 嬉野市塩田* 嬉野市下宿乙*, 吉野ヶ里町三田川*, 神崎市千代田*, 神崎市神埼*				
2026 年 03 月 19 日 21 時 59 分 佐賀県	有明海	33° 05.2' N	130° 17.0' E	14km	M3.3
	震度 1 : 唐津市相知*, 佐賀市駅前中央, 佐賀市栄町*, 佐賀市諸富*, 佐賀市川副* 太良町多良				
2026 年 03 月 25 日 20 時 33 分 佐賀県	福岡県筑後地方	33° 05.2' N	130° 32.4' E	13km	M4.0
	震度 3 : 佐賀市川副*				
	震度 2 : 唐津市相知*, 佐賀市駅前中央, 佐賀市富士町*, 佐賀市栄町*, 佐賀市三瀬* 佐賀市東与賀*, 佐賀市久保田*, 佐賀市諸富*, 鳥栖市宿町*, 武雄市山内* 武雄市武雄町昭和*, 基山町宮浦*, 江北町山口*, 白石町福田*, 白石町福富* 白石町有明*, みやき町中原*, 小城市小城*, 小城市芦刈*, 小城市牛津* 嬉野市塩田*, 神崎市千代田*				
	震度 1 : 唐津市西城内, 唐津市竹木場*, 唐津市巖木町*, 唐津市七山*, 唐津市肥前* 唐津市呼子*, 唐津市浜玉*, 伊万里市立花町*, 佐賀市大和*, 武雄市武雄町武雄* 武雄市北方*, 佐賀鹿島市納富分*, 上峰町坊所*, 大町町大町*, 太良町多良 みやき町三根*, みやき町北茂安*, 小城市三日月*, 嬉野市下宿乙* 吉野ヶ里町三田川*, 吉野ヶ里町東脊振*, 神崎市脊振*, 神崎市神埼*				

- ・「\*」の付いた地点は、佐賀県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点です。
- ・地震の震源要素（緯度・経度・深さ・M）は暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・震源が複数ある地震については、近接した地域でほぼ同じ時刻に発生した地震であるため、震度の分離ができず、規模の大きい地震を代表として扱います。

## 「平成 28 年（2016 年）熊本地震」から 10 年 ～「熊本地震から 10 年」特設サイトの開設～

今年、甚大な被害をもたらした「平成 28 年（2016 年）熊本地震」（以下、熊本地震）から 10 年の節目となります。今回は熊本地震の概要について振り返るとともに、熊本地方気象台と大分地方気象台が開設した特設サイトを紹介します。

### ● 熊本地震とその特徴

2016 年 4 月 14 日 21 時 26 分に熊本県熊本地方を震源とする M6.5 の地震が発生し、熊本県益城町で震度 7 を観測しました。その約 28 時間後の 4 月 16 日 01 時 25 分に同じ熊本県熊本地方を震源とする M7.3 の地震（以下、本震）が発生し、熊本県の益城町と西原村で震度 7 を観測しました。このように、一連の地震活動のうちに 2 度も震度 7 が観測されたのは、気象庁の震度観測史上初めてのことでした。これらの地震は、政府の地震調査研究推進本部地震調査委員会（以下、地震本部）が長期評価の対象としていた活断層（布田川断層帯・日奈久断層帯）が活動したものと評価されています。本震発生後には、時間の経過とともに地震の活動域が熊本県から大分県にかけての広い範囲に拡大しました。気象庁はこの一連の地震活動の名称を「平成 28 年（2016 年）熊本地震」と決めました。

この熊本地震による人的被害は、熊本県で死者 275 人（災害関連死含む）、大分県で死者 3 人、熊本県、大分県、福岡県、佐賀県、宮崎県で重傷者 1,203 人にのぼりました（熊本県の死者数は 2025 年 4 月 11 日現在、熊本県による、その他は 2019 年 4 月 12 日現在、消防庁による）。また、震源域付近を中心に建物被害や土砂崩れなどが発生したほか、電気、ガス、水道、交通アクセスなどのライフラインにも甚大な被害を生じました。

### ● 熊本地震後の主な取り組み

#### （1）大地震の見通しの表現について

熊本地震で発表した地震活動の見通しについては、以下の課題が指摘されました。

- ・最初の大きな地震の後に、より大きな地震が発生したことにより、政府の地震本部が 1998 年（平成 10 年）にとりまとめた報告書「余震の確率評価手法について」に基づいて発表してきた、大きな地震が発生した後の余震の確率評価手法の判定条件が妥当でなくなったこと。
- ・「余震」という言葉が、より大きな地震、より強い揺れは発生しないというイメージを情報の受け手に与えた可能性があること。
- ・余震発生確率の値が通常の生活の感覚からするとかなり低い確率であると受けとられ、安心情報であると受け取られた可能性があること。

これらの課題に対処するため、地震本部は余震の確率評価手法の改良のほか、大地震後における地震活動の見通しや防災上の呼びかけの方針を検討した結果を、「大地震後の地震活動の見通しに関する情報のあり方」（2016 年 8 月）としてとりまとめ、公表しました（以下 URL）。

[https://www.jishin.go.jp/reports/research\\_report/yosoku\\_info/](https://www.jishin.go.jp/reports/research_report/yosoku_info/)

これを受けて気象庁は、大きな地震が発生した場合に以下のような呼びかけをしています。

- ・地震発生直後は、最初の地震と同程度の地震への注意を呼びかけることを基本

とし、地域特性に応じた注意喚起を行う。

- ・周辺に活断層等がある場合は、地震本部の長期評価結果等に基づいた呼びかけを行う。
- ・地震発生から1週間程度以降は、余震確率に基づく数値的な見通しを、非常時の確率等との比（例：地震発生当初の1／〇程度、平常時の〇〇倍）で表現し、付加する。

現在、気象庁が大きな地震（最大震度5弱以上）が発生した場合に発表している、地震活動の見通しや防災上のポイントなどについては、下記リンク先をご覧ください。

[https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/aftershocks/index\\_whats\\_aftershock.html](https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/aftershocks/index_whats_aftershock.html)

## (2) 活断層の調査

地震本部では、平成28～30年度に布田川断層帯・日奈久断層帯の総合的な活断層調査を実施し、活断層の活動区間や過去に発生した地震の時期などで新たな知見が得られました。調査の詳細については下記リンク先をご覧ください。また、熊本地方気象台は布田川断層帯でトレンチ調査を実施した東北大学と熊本大学の協力を得て、地層の剥ぎ取り標本を作製しました（後述する熊本地方気象台の特設サイト内でご紹介しています）。

平成28年熊本地震を踏まえた総合的な活断層調査のページ（地震本部）

[https://www.jishin.go.jp/database/project\\_report/kumamoto\\_sogochousa/kumamoto\\_sogochousa-h28-h30/](https://www.jishin.go.jp/database/project_report/kumamoto_sogochousa/kumamoto_sogochousa-h28-h30/)

## ● 「熊本地震から10年」特設サイトについて

熊本地震から10年という節目の年に当たることから、熊本地方気象台と大分地方気象台は、熊本地震に関する特設サイトを開設しました。特設サイトでは、熊本地震の概要や被害状況、当時の気象台の対応や地震に関する基礎知識などについてわかりやすく解説しています。モバイル端末からもアクセスできますので、どこからでも気軽に見ることができます。日本に住んでいる限り、「いつでも、どこでも、だれでも」大きな地震に遭遇する可能性があります。この機会に地震への備えや地震発生時の行動について考えてみませんか。

## 「熊本地震から10年」特設サイトのトップページ

### 熊本地方気象台



### 大分地方気象台



特設サイトのURL

熊本地方気象台：<https://www.data.jma.go.jp/kumamoto/The-2016-Kumamoto-Earthquake/index.html>

大分地方気象台：<https://www.data.jma.go.jp/oita/shosai/The-2016-Kumamoto-Earthquake-oita/index.html>